

①ディレクトフォース

まず始めに、国際金融から電線会社、そして大学で、様々な活躍をされた石川通敬さんのお話を聞きました。石川さんはスイスの留学をはじめとして人生の大部分を世界規模で転々とされ、その後海外での生活を大学で講義したそうです。この経験から、海外での生活や、異文化との接し方をお話いただきました。私達は事前に「海外で仕事をする時大切だと思う事」として、「その土地の文化、宗教を知り、理解する事」を挙げましたが、それだけでは足りず、その土地の周辺の民族、宗教の関係や、歴史も勉強する事で、危険も回避できるし、何よりそこに興味が湧き、楽しめるそうです。また、その勉強をする上でも、やはりコミュニケーション能力がとても重要とおっしゃっていました。ですが、地元の外国人に聞くより、そこに長くいる日本人に聞く方が分かりやすく聞いていて面白いともおっしゃっていました。また、石川さんは海外で仕事をする上の3つの心構えも教えて下さりました。1つは「キッパリと分析、計画、そして勇気を持って決断する事」、2つ目は「時代の流れをおさえて、経済をみる事」、3つ目は「何をするにも、最後まで夢を忘れずそれに向かっていく事」この3つを心においておくと不安な海外生活もやりきれそうです。

次には、海洋関係の仕事をしている酒井英次さんのお話を聞きました。酒井さんは、元々ヨットに興味があり、日本代表のチームの支援をしていた団体に入って、はじめは造船から海の仕事に就いたそうです。しかし、そのころは、もう既に造船業は衰退しつつあり、酒井さんの所属していた団体は海洋の研究やそれに関する政策の提案などをするようになりました。この仕事は、国が様々な省庁で分けてしまい、全体として見られていない海の問題をNGOの視点から見ていくというものです。それと合わせて、NGOなので、政府が縛られている[しがらみ]を気にせず活動できる事が良いとおっしゃっていました。また、様々なプロジェクトのリーダーをされた経験から、リーダーとしてまとめる時に気を付けている事を教えていただきました。それは「一人一人の面白さ、興味を潰さないように、強制ばかりせず、且つ問題とゴールをしっかりと共有する事」だそうです。これはとても重要だと私も思いますが、同時にとても難しい事だとも思います。それでもこなしていく器用さが、リーダーには必要なのだと感じました。

3ラウンド目には、世界中で35年間も様々なインフラ・プロジェクトを担当された越川頼知さんに来ていただきました。越川さんは、大学時代、安保闘争の最中で、勉強が殆どできなかったそうです。それでも越川さんは、世界中を廻ってご活躍されました。その際、言語は何週間か一生懸命勉強するのだそうです。

また、実際に行って生活する事自体も言語を覚えるのに効果的だとおっしゃっていました。

4ラウンド目は、主にアジア地域で交流や人材育成を担当する林茉莉子さんにお話を伺いました。林さんははじめ、ホームステイで海外に興味を持ち、色々な文化に触れる事が好きになったそうです。

ロンドンでの生活で学んだ事を教えていただきました。まず、自分が外国人として生活することで、アウェー感やその国での利己的な考え方を感じて、日本で外国人と仕事をする時に参考にしていると言います。

4名の方々からのお話を聞き、私はいくつか自分で考えた事があります。まず1つは、全員のお話に共通していましたが、「自分も周りの人も、楽しみや興味を持つ事を忘れない事」が大切だという事。しかし、それでも決まった方向に進んで行く強い心が必要だと思いました。

2 つ目は、「いつになっても学びは必要だという事」でもそれは学校の勉強とは違い、自分から求める事による学びです。そのような、それまでしてきた事と似たようで違う行動が、海外で働く上でとても重要だと思います。私はこの 2 つを完璧にクリアできるとは、正直今の段階では思えません。ですが、高校 1 年生の夏というとても早い内にこれらを知ることができました。この経験を生かせるように、これから意識をきちんと持って将来に備えたいと思います。